



# 本人と決めていくための見立てのSTEP1・2・3

## STEP.1 本人のニーズを内側からながめる

発達障がいのある方の場合、「本人の言葉」＝「本人のニーズ」とは限りません。「本人の表面的なニーズ」って…

あるきっかけから強く印象づけられて、社会一般の基準から大きく外れていたり、

過去のいじめ体験から生じたへこみだったり、

できないのではなくて、学んでいないだけかもしれない？

支援者の工夫 ...本人の言葉のその奥にあるものを推測してみよう！

- ・本人との話からパターンを探る（対人関係、初めや終わりのきっかけ）
- ・本人との話からパターンができた経緯を読み解く
- ・本人との話からだけではわからないことは、行動を共にすることで分かる

## STEP.2 本人のニーズを外側からながめる

発達障がいのある方の場合、社会一般のルールを自然に学ぶのが難しいことがあります。

支援者の工夫 ...色々な視点を通して本人のニーズをチェックしてみよう！

- ・支援者自身の視点が正しいのか、支援者自身の価値観もセルフチェック
- ・本人の言葉に寄り添うだけでは、本人が前進できないことや問題が解決されないことがある

## STEP.3 アプローチの提案

ニーズの実現のためには、大別して3つあります

支援者の工夫 ...本人の決定を応援しよう！

- ・提案は支援者が、選択は本人に
- ・本人が決めた方法でやってみて、また結果を眺めてみる（ケアマネジメントサイクルへ 詳細は次ページ）